



夏期講習

中学3年 国語

必修編 補助プリント

# 解き方のポイント

## 1 何を聞かれているのか

「指し示している内容は何か」

↓ 指示語の問題

「なぜか」「理由は」

↓ 理由を問う問題

「どんな様子か」

↓ 具体的内容を問う問題など

## 2 どう聞かれているのか、どう答えるのか

「なぜか」

↓  
s

「どんな」とか

↓  
s

「どういつ」とか

↓  
s

「何か」

↓  
s

／  
s

## 3 書き抜くのか、文を作るのか

① 書き抜きなさい。抜き出しなさい。

↓ 正確に、一字一句間違えないように、書き写す

② 文中の語句を用いて、書きなさい。

↓ 重要語句を用いて自分でまとめる

#### 4 字数は何字か、句読点に入るのか

- ① 「〇字以内で答えよ」 ↓
- ② 「〇字程度で答えよ」 ↓
- ③ 「〇字で答えよ」 ↓
- ④ 句読点は、特別な指示がない限り、数に入れる。  
句読点も一字と数える・指示なし ↓  
句読点は含まない ↓

#### 5 一文なのか、部分なのか

##### ①「一文の最初の〇字を書け」

↓ から書く ×読点（、）のあとから

★一文 Ⅱ 長さに関係なく、句点（。）から句点まで

##### ②「部分を抜き出せ」

↓ 一文より長い場合も、短い場合もあるし、  
文の途中で始まったり終わったりもする。

##### ③「一文節で抜き出せ」 ↓

##### ④「一語で抜き出せ」 ↓

# 解き方のポイント まとめ

1 何を聞かれているのか

2 どう聞かれているのか、どう答えるのか

「なぜか」

↓  
『』

。

「どんなことか」

↓  
『』

。

「何か」

↓  
『』

。か『』

。』

3 書き抜くのか、文を作るのか

4 字数は何字か、句読点に入るのか

① 「○字以内で答えよ」

↓  
(

)

② 「○字程度で答えよ」

↓  
(

)

③ 「○字で答えよ」

↓  
(

)

④ 句読点は、特別な指示がない限り、数に入れる。

5 一文なのか、部分なのか

① 「一文の最初の○字を書け」

↓  
(

から書く

×読点(、)のあとから

② 「部分を抜き出せ」

③ 「一文節で抜き出せ」

↓  
(

)

④ 「一語で抜き出せ」

↓  
(

)

# 論説文のポイント

## (1) チェックポイント

①

②

③

「人を成長させる読書」という文章のキーワード

↓

↓

↓

## (2) 指示語の鉄則

①

②

③

1 白い花が咲いていた。それは、とても美しかった。

それ↓

2 平和への切なる願い。それは、人類共通の希望である。

それ↓

★ 指示語が出てきたら、すぐにチェックする

### (3) 接続語

前後のつながりを考える

そして だから

順接

しかし だが

逆接

つまり 要するに

要約 いいかえ Ⅱ まとめ

なぜなら たとえば

説明 具体例

さて では ところで

転換 Ⅱ 段落分け

私は、国語が好きだ。(

)、数学は苦手だ。



### (4) 主題

筆者が最も言いたいところ

・ ( ) を見る

・ ( ) を探す

・ 文章の ( ) を見る

・ 接続語 ( ) ( ) に注目

人は、環境によって作られる。( A )、意識さえ持つて  
いれば、環境の中で自分を変えることもできる。( B )、  
自分が変われば周りが変わり、結果的に環境を変えてしま  
うこともある。たとえ周りの環境が悪くても、自分がそれを  
弾くだけの意志と術を心得ていれば、勝手に染められてしま  
うものではない。

問1 この文章のテーマとなる語を、文中から一語で抜き出しな  
さい。( )

問2 ABにあてはまる語をあとから一つずつ、選びなさい。

アそして イしかし ウつまり エさて

A ( ) B ( )

問3 「それ」が指す内容を、文中の語を用いて書きなさい。

( )

# 論説文ポイント まとめ

## (1) チェックポイント

①

②

③

## (2) 指示語の鉄則

①

②

③

★ 指示語が出てきたら、すぐにチェックする

## (3) 接続語

( )

( ) を考える

## (4) 主題

筆者が最も言いたいところ

・ ( )

( ) を見る

・ ( )

( ) を探す

・ 文章の ( )

( ) を見る

・ 接続語 ( )

( )

( ) に注目



# 小説のポイント

## (1) 小説の三要素

①

(だれが)

②

(いつ・どこ)

③

(どうした)

★ いつもと違う「と」 ( ) が起きる「と」によって

( ) の心情が変わっていく。

★ 設問を読んで、問われている ( ) をチェック

するのも良い。

## (2) 人物の心情

①

しかめっつらのまま

↓

②

いてもたってもいられず

↓

③

「はい」と小声で言った。

↓

### (3) 情景描写

- ・ 季節や時間がわかる。場所や周りの様子がわかる。
- ・ 背景だけでなく、人物の気持ちを表すことがある。

太陽は赤々と燃えている。

↓

冷たい月の光が僕を照らしていた。↓

### (4) 比喻(たとえ)表現

( Ⅱ

僕は、鳥になったような気分だった。↓

僕は、鳥になった気分だった。↓

木々のおしゃべりがとても心地よい。↓

昨日から降り続く雨は、まだ、やむ気配がなかった。私は、無雑作に、テーブルの上の携帯電話に手を伸ばした。

その時、メールが届いた。送信相手は、実家の母である。

「そうだ。今日は、私の誕生日だった。」

私は、急に母が懐かしくなって、実家に電話をかけた。

「メール、ありがとう。風邪なんて、ひいてない？」

窓をたたく雨音が、少しだけ弱くなった気がした。

問1 この場面の事件を「……」と。という形で答えなさい。

（

）

問2 この事件のあとの「私」の気持ちとして適切でないものを  
あとから一つ、選びなさい。

ア 感謝    イ 郷愁    ウ 安心    エ 憂うつ

問3 この場面で、「私」の気持ちを象徴しているものを、一語で答  
えなさい。

（

）

# 小説のポイントまとめ

## ① 小説の三要素

①

②

③

(だれが)

(いつ・どこで)

(どうした)

★

いつもと違うこと

何が起きるかと考えて

(

)の心情が変わっていく。

★

設問を読んで、問われている

にチェック

するのも良い。

## ② 人物の心情

①

②

③

## ③ 情景描写

## ④ 比喻表現

①

②

③

# 「短歌・表現技法」

## 1 短歌について

「五七五七七」の三十一文字    Ⅱ    定型

字余り・字足らず    Ⅱ    破格

## 2 句切れについて

(    ) 句切れ

(    ) 句切れ

句切れなし

五／七／五／七／七

(    ) 句切れ

(    ) 句切れ

\*意味の句切れるところ

\*切れ字(や・かな・けり)のあと

## 3 修辞法

(1) 比喻    直喩・隱喩・擬人法

(2) 反復法    くりかえす

(3) 対句法    似た言葉を並べる

(4) 倒置法    順序を逆に

(5) 体言止め    名詞で止める

(6) 擬声語    音を表す

# 古典の基礎

歴史的仮名遣い ↓ 現代仮名遣い

1 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」 ↓ 「わ・い・う・え・お」

かほ ↓ まへ ↓ 思ひ ↓

2 「ぢ・づ」 ↓ 「じ・ず」 よろづ ↓

みぢかく ↓ すゑ ↓ せと ↓

3 「ゐ・ゑ・を」 ↓ 「い・え・お」

ゐる ↓ か・が ↓ ぐわん ↓

4 「くわ・ぐわ」 ↓ 「か・が」

くわじ ↓

5 「む」 ↓ 「ん」

ひむがし ↓

6 「ア段＋う」 ↓ 「オ段＋う」

まうす ↓ あぶぎ ↓

7 「イ段＋う」 ↓ 「イ段ゆ＋う」

うつくしう ↓ きうり ↓

8 「エ段＋う」 ↓ 「イ段よ＋う」

せうと ↓ れうり ↓

# 古典の基礎

問 現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- |   |     |   |     |   |      |   |     |
|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|
| ① | きのふ | ② | をかし | ③ | にふだう | ④ | まゐる |
| ⑤ | しづく | ⑥ | てうし | ⑦ | さうらふ | ⑧ | けふ  |
| ⑨ | きやう | ⑩ | ゆる  |   |      |   |     |

- |   |     |  |  |  |  |  |  |
|---|-----|--|--|--|--|--|--|
| ① | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ② | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ③ | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ④ | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ⑤ | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ⑥ | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ⑦ | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ⑧ | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ⑨ | ( ) |  |  |  |  |  |  |
| ⑩ | ( ) |  |  |  |  |  |  |

## 古典の基礎

与一、かぶらを取つてつがひ、よつぴいてひやうど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、あやまたずあふぎの要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。

問 次の語句を現代仮名遣いに直しなさい。

- |   |      |   |   |   |
|---|------|---|---|---|
| ① | つがひ  | ↓ | ( | ) |
| ② | ひやうど | ↓ | ( | ) |
| ③ | いふ   | ↓ | ( | ) |
| ④ | ぢやう  | ↓ | ( | ) |
| ⑤ | あふぎ  | ↓ | ( | ) |
| ⑥ | ぎは   | ↓ | ( | ) |



# 古典の基礎

歴史的仮名遣い



現代仮名遣い

1 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」



・

・

・

・

「

2 「ぢ・づ」 ↓ 「

・

「

3 「ゐ・ゑ・を」 ↓ 「

・

・

「

4 「く・わ・ぐ・わ」 ↓ 「

・

「

5 「む」 ↓ 「

「

6 「ア段＋う」 ↓ 「

段＋う

7 「イ段＋う」 ↓ 「

段

＋う

8 「エ段＋う」 ↓ 「

段

＋う

# 係り結びの法則

係助詞

意味

文末の形

ぞ

強意

なむ

連体形

や

疑問・反語

か

こそ

強意

已然形

例1

名をば、さぬきの造となむ、いひける。

例2

いかなる所にか、この木はさぶらひけむ。

例3

折節の移り変はるこそ、物ごとにあはれなれ。

# 係り結びの法則

係助詞

意味

文末の形

（	（	（	（	（
）	）	）	）	）
┐	┐		┐	
		・		
┌	┌		┌	
已然形		連体形		

問 例を参考にして、係り結びの法則に印をしなさい。

例 名をば、さぬきの造となむ、いひける。

① 扇は空へぞ上がりける。

② 何事かありけむ。

③ 神へ参るこそ本意なれ。

# 係り結びの法則

「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし。

なさけなうも討ちたてまつるものかな。」とかきくどき、

袖を顔に押しあてて、<sup>①</sup>さめざめとぞ泣きゐたる。

やや久しうあつて、鎧直垂をとつて、首をつつまんとしけるに、

錦の袋に入れたる笛をぞ、腰にさされたる。

「あないとほし、この暁、城の内にて管弦したまひつるは、この人々にて  
おはしけり。上臈は、なほもやさしかりけり。」とて、九郎御曹司の

見参に入れたりければ、これを見る人、涙を流さずといふことなし。

後に聞けば、修理大夫経盛の子息に大夫敦盛とて、

生年十七にぞなられける。

<sup>②</sup>それよりしてこそ熊谷が発心の思ひはすすみけれ。

問1 ①②の文の係り結びの法則を説明しなさい。

① 係助詞 ( ) 結びの語 ( )

結びの活用形 ( ) 形

② 係助詞 ( ) 結びの語 ( )

結びの活用形 ( ) 形

問2 ①②以外に、係り結びの法則はいくつあるか。漢数字で答えなさい。

( ) 二つ

# 古文の読み方1

古文の読み方について勉強しよう

## 0 現代仮名遣いと現代語訳

例 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山きは…

現代仮名遣い 〃

( ) ( ) ( )

現代語訳 〃

( )

## 1 人物チェック

古文では( )の省略が非常に多いので、忘れずに人物チェックをすること。問題にも出やすい！

## 2 「の」が出てきたら、「が」に直す ↓ の

例 夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、

からすの寝どころへ行くとして

# 古文の読み方1

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、  
すこしあかりて、紫だちたる雲<sup>1</sup>の細くたなびきたる。  
夏は夜。月<sup>2</sup>のころはさらなり、やみもなほ、螢<sup>3</sup>の多く  
飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかに  
うち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

問1 「やうやう」を現代仮名遣いに直しなさい。

( )

問2 「をかし」を現代語訳しなさい。

( )

問3 1～3のうち、一つだけ違うものを選びなさい。

( )

問4 「うち光りて行く」の主語を抜き出しなさい。

( )

問5 『枕草子』の成立年代と作者を漢字で書きなさい。

( )

( ) 時代

( )

( )

# 古文の読み方2

古文の読み方について勉強しよう

## 3 会話文は「と」「よ」の直前

古文には、「」がないので、問題になりやすい！

例1 彼は、おはようと言った。

例2 黒戸に主殿司来て、かうてさぶらふと言へば、

寄りたるに、これ、公任の宰相殿のとてあるを見れば、

## 4 係り結びの法則

係助詞

意味

文末の形

ぞ

強意

なむ

連体形

や

疑問・反語

か

こそ

強意

已然形

例 名をば、さぬきの造となむいひける。

## 古文の読み方2

### 5 短歌で覚える古文訳

けりける **た** たりたる **て** いる  
なりなる **だ** より **か** らず **な** い  
ければ (は) **た** の **で**

ある山寺の坊主、慳貪なりけるが、飴を治して、ただ一人食ひけり。  
よくしたためて、棚に置き置きしけるを、一人ありける小児に食は  
せずして、「これは、人の食ひつれば、死ぬる物ぞ。」と言ひけるを、  
この児、あはれ食はばや、食はばやと思ひけるに、坊主他行の隙に、  
棚より取り下ろしけるほどに、うちこぼして、小袖にも髪にも  
ついたりけり。日ごろ、欲しと思ひければ、二、三杯よくよく食ひて、  
坊主が秘蔵の水瓶を、雨垂りの石に打ち当てて、打ち割りて置きつ。



## 古文の読み方2

豊前の国の住人太郎入道といふものありけり。男なりける時、つねに猿を射けり。ある日、山をすぐるに、大猿ありければ、木に追ひのぼせて射たりけるほどに、あやまたずかせぎに射てけり。すでに木より落ちんとしけるが、なにとやらんものを木のまたに置くやうにするを見れば、小猿なりけり。おのがきずを負ひて土に落ちんとすれば、小猿を負ひたるを助けんとて、木のまたにすゑんとしけるなり。小猿はまた、母につきてはなれじとしけり。かくたびたびすれども、なほ小猿つきければ、もろともに地に落ちにけり。それより長く、猿を射ることをばとどめてけり。

# 古文の読み方 まとめ

1 チェック

2 「の」が出てきたら、 「」に直す

3 会話文は「 「」の直前

4 係り結びの法則

5 短歌で覚える古文訳

# 漢文

漢文とは

① 白文

読書。

読漢書。

② 漢文

読ム書ヲ。

読ム漢ノ書ヲ。

③ 書き下し文

書を読む。

漢の書を読む。

訓点とは

① 右下 ↓

送り仮名をカタカナで。

読ム書ヲ。

② 左下 ↓

返り点

問1 送り仮名を振りなさい。

読ム書。

問2 返り点を打ちなさい。

読ム書ヲ。

問3 訓点を打ちなさい。

読書。

# 漢文

返り点とは

① レ点

読ム  
レ書ヲ。

不  
レ知  
ラ  
レ名ヲ。

② 一・二点

読ム  
ニ漢ノ書ヲ一。

③ 一・レ点

子  
無  
カレ  
ニ敢  
ヘテ  
食  
ラフ  
一  
レ我ヲ。

書き下し文に直すときの注意

- ① 返り点にしたがって読む。
- ② 送り仮名はひらがなに直す。
- ③ 歴史的仮名遣いはそのまま。
- ④ 助動詞・助詞はひらがなに直す。
- ⑤ 置き字は読まない。（而・於・矣など）

# 漢文

問1 「不<sub>レ</sub>知<sub>ラ</sub>名<sub>ヲ</sub>。」を書き下し文にしなさい。

問2 「子無<sub>カレ</sub>二敢<sub>ヘテ</sub>食<sub>ラフ</sub>一<sub>レ</sub>我<sub>ヲ</sub>。」を

書き下し文にしなさい。

問1 (

)

問2 (

)

書き下し文に直すときの注意

- ① 返り点にしたがつて読む。
- ② 送り仮名はひらがなに直す。
- ③ 歴史的仮名遣いはそのまま。
- ④ 助動詞・助詞はひらがなに直す。
- ⑤ 置き字は読まない。(而・於・矣など)

# 漢文

春望

杜甫

国破<sup>レ</sup>山河在<sup>リ</sup>

城春<sup>ニシテ</sup>草木深<sup>シ</sup>

感<sup>①</sup>シテハ<sup>レ</sup>時<sup>ニ</sup>花<sup>ニモ</sup>濺<sup>①</sup>ギ<sup>レ</sup>涙<sup>ヲ</sup>

恨<sup>①</sup>ンデハ<sup>レ</sup>別<sup>レ</sup>鳥<sup>②</sup>ニモ驚<sup>②</sup>カス<sup>レ</sup>心<sup>ヲ</sup>

烽火連<sup>ナリ</sup>三<sup>ニ</sup>月<sup>ニ</sup>

家<sup>③</sup>書抵<sup>タル</sup>万<sup>ニ</sup>金<sup>ニ</sup>

白頭搔<sup>ケバ</sup>更<sup>ニ</sup>短<sup>ク</sup>

渾<sup>ベテ</sup>欲<sup>③</sup>ス<sup>レ</sup>不<sup>ラント</sup>レ<sup>ニ</sup>勝<sup>ヘ</sup>レ<sup>ニ</sup>簪<sup>ニ</sup>

国破れて 山河在り 城春にして 草木深し

( ① ) 花にも涙を濺ぎ 別れを恨んでは ( ② )

烽火 三月に連なり ( ③ )

白頭 搔けば更に短く 渾べて ( ④ )

問1 ①～④までを書き下し文にしながら。

① ( )

② ( )

③ ( )

④ ( )

( )

( )

( )

( )